

日本ミャンマー豊友会 第28回スタディーツアースケジュールは下記のような日程で挙行政いたしました。全行程3名と後半組4名が合流し、ガイドさんを入れて8名のツアーでいつもより少人数となりました。

24日の初日はハートメディカルグループのT社長さんたち3名と合同食事会で始まり、ニットウェイさんをお呼びして日本語教室を飾る日本の人形藤娘や兜、日本の小学生用国語、漢和辞典(Aさん提供)をプレゼンたさせていただきました。

25日はパゴー観光を兼ねて日本の農業用機械の中古を扱っている工場の視察も行いました。運転訓練からメンテナンスまでして一式いくらかという設定でしたが、想定した贈呈先のお相手に、生産性向上という概念がなく？熱意が感じられないため橋渡しを中断しました。夜はご一緒したAさんの友人の娘さんで、現地に根付いてお土産のクッキーの販売店を展開している、“S・夢”さんの夢をお聞きしながらタイ料理店で会食。

26日はバガン近くのパコックというところに日本企業として初めて進出した四国の手袋工場(孤児の就職受け入れ先として想定)と、オイスカの現地農事試験場(S・京子さんの最初の赴任地)、それに政府系(国境省管轄下)の職業訓練所の見学をいたしました。規模の大小はあるのですが、全国に40か所以上あるそうです。併せて福祉省関係でも4,500カ所あるそうで、ミッチーナを訪問した7年前とは大違いで、政権交代後？急速に拠点数が広がっています。ちなみに訪問した訓練所は縫製コース、編み物、理美容コース、PCコース等があるということです。午後は観光、夜はマリオネット人形劇の鑑賞で、シャン料理をいただきました。

27日は後半組のドネイターT親子の3人とヘイホー空港で落ち合い、サッティ村の幼稚園の開園式に臨みました。ツアーの参加者の方はご想像がつくでしょうが、例年にも増しての大歓迎を受け、鯉のぼり、紙芝居、ピアノカ、サッカーボールの4点セットと皆さんがおもちしたお菓子や文具を贈呈しました。特筆すべきはTさんにの臨時のそろばん教室を開設していただき約1時間にわたって学習指導してもらいました。現地の先生方も大変熱心に学ばれるも

のですから、超大型の先生用そろばんと普通の大きさのそろばんも20数個おいてまいりました。次回までに必ず生徒さんに教えるというお約束付きです。

28日はヤンゴンに戻り、尼さんが経営しておいでになる孤児院、尼僧院を見学後（ここで昨年インパール方面に行ったときのガイドのヤンさんがボランティアできていて再会）、ドリームトレインに移動。日本語教室開設の希望の有無や日本留学、あるいは日本企業への就職支度など話し合うも、ペンディングとなりました。夜は空港から5分、渋滞のおそれもない中華料理店でウインミン親子と工場長をお迎えして解団式をおこない、全員をANAにお見送りいたしました。

29日は近藤ひとり残り、yさんの通訳、御協力でトンテの孤児院に向かい、給付型の奨学金や職業訓練、日本語教室の開設希望などを院長のお坊様にお尋ねしました。お坊様は教育には大変熱心(今年のセイダン試験は110人受験、水祭り後4月12日に可否の発表予定。昨年は10人が合格してそのうち半数近くが通信大学に進学)ではあるが、就職の世話にはさほど注力されていないように感じられました。特に目の届かない州外に行くのは反対のご様子。孤児の就職を引き受けてもいいという孤児院近くの水引製造工場の現場も見る。夕方ニットウェイさんの新事務所兼日本語教室を見学。担当でご面倒をかけているナンヤミンさんとも面談。ANA便で帰るも成田羽田の乗り継ぎに失敗し、帰宅は3時となる。